

娘への手紙

学問はなぜ必要なのか

池田眞也

Mへ

小学校卒業おめでとう。

大人の階段をのぼりはじめたことに親としてうれしさを感じています。パパからMに伝えておきたい人生で大切なことをいくつか記しておきます。照れずに最後まで読んでください。いまのMにはまだ理解できなかったり、ピンとこないところがあるかもしれませんが、いまはわかるところだけがわかればいいと思います。この文章は大切に保管しておいて機会があるごとに読み返してください。

成長の早さは人によって差があり、友達の中にもずいぶん早熟な子もいることでしょう。そういう子たちと比べて劣等感を感じる必要はありません。無理に大人になろうとしたり背伸びをしたりすると心に大きな傷をおうことが多いものです。自分にあつたはやさで成長して行ってください。心配しなくてもある時期がきたら誰もが大人になります。12歳の自分、13歳の自分、14歳の自分には過ぎてしまえば二度と戻れません。今という時間を大切にしてください。

何度も言っていることですがなによりも友だちを大切にしてください。友だちがいればそれだけで生きていくことはできます。他人に対しての優しさを常に持っていれば、自分がピンチにおちいったときに誰かが助けてくれるものです。逆に友だちから嫌われてしまったらそれだけで貴重な時間がつまらないものになってしまいます。人間はひとり生きていくことなどできないのです。とくに傷ついている子に対しては優しい言葉をかけてあげてください。性格や考え方が合わない友達もいるでしょうが、どんな人でも必ず学ぶべき点を持っているものです。簡単に人を嫌ってはけません。人の悪口に遭遇することは多くなることでしよう。大人になっても人の悪口をいう人はたくさんいるのでまったく避けて通ることはできないかもしれませんが、しかし百害あって一利なしです。本人には聞かれないかと思っていても必ず自分に跳ね返ってくるものです。くれぐれもつつしんでください。人は誰でも優しくしてくれた人には優しさを返そうとし、憎しみを受けた人は同じものを返そうとするものです。

いまのままのやさしいMでいてください。

なにかひとつ熱中できるものを見つけれたらうれしいと思います。パパはMには演劇がむいているのではないかと思っっていますが、スポーツでも音楽でもファッションでもなんでもかまいません。本当に好きになれるものを自分で選んでください。

ただ熱中できることをみつけることは簡単なことではありません。見つけられない人が大部分です。でも見つければ幸せかというところも言い切れないところもあります。中途半端に夢を追ったがために不幸になったという人もなかにはいるし、その逆もたくさんあります。見つからなかったら無理に見つけることはありません。

将棋とはただならでいいからいつまでも続けてくれたらいいなと思っています。将棋はてつとりばやく、すべてのことを忘れさせてくれます。人には深い傷を負い、どうしようもない状態においこまれることが時にはあるものです。そんなときには将棋が助けてくれます。たとえ一日一時間でもその苦しみから逃れることができましたら、少なくとも生きる力は失われずにすむはずです。

また同じような意味で音楽も一生つきあえるいい友だちになれるでしょう。

中学校に入学したら今以上に勉強をしっかりとってください。ではなぜ子どもに学問が必要なのでしょう。ちょっと長くなりますがパパの考えを記しておきます。

パパは子どものころ勉強が嫌いでした。正確に言えば勉強が嫌いだと思っていました。実はこの世に本当に勉強が嫌いだという子はひとりもいないのです。「そんなばかな」とみんなから反論されるかもしれませんが、嫌いなのは試験や宿題などでノルマや時間に追われたり、点数によってまわりの友だちとの間に優劣ができたように感じてしまうことであり、学ぶことそのものを嫌っているわけではないのです。いままで知らなかったことを知るということは大きな喜びと快樂なのです。

なぜ学問が必要なのか、という問いに立ち止まってしまいう人もたくさんいます。パパが十代のころ、今以上に受験戦争は厳しくて、いい大学に入ることが幸福や裕福な生活を手に入れるパスポートのようなものだと思われていた大人から言われていましたが、そんな考え方が納得できなくて勉強に身が入らず、結局大学受験は二年間も浪人し、行きたかった大学にもいけませんでした。結局入学した大学でもいい仲間との出会いがあり後悔しているわけではありませんが、反省すべき点多々ありました。パパは大人になってから中学、高校の勉強をやり直していますが、何かに役立てようとしているわけではなく、ただ純粹に学ぶことを楽しんでいただけです。わからないところ、解くのに時間がかかりすぎてしまうこともたくさんありますが、たとえそうでも誰からもなにも言われずに自由に勉強することができます、こんな楽しいことはありません。

しかしMには時間が無限にあるわけではありません。中学、高校それぞれ三年間などはあつというまに過ぎてしまいます。限られた時間の中で勉強だけでなくほかにもたくさんすることを学ばなければいけません。時間を有効に使ってください。

学問とはなにかという問いには人それぞれ違う答えがあるでしょうし、パパのいつていることもまた必ずしも正しいとはいえないかもしれません。すべての人の言うことがそうですが、賛成できるところはしっかり学んで自分のために生かせるようにし、賛成できないところは完全にはうのみにしないでください。「だったら私はどう思うのか」ということを常に考えてください。

パパは学問の大きな目的の一つはひとことではいえない『私』とはなんであるのか」をあらゆる角度から検証することだと考えています。なぜMはMなのでしょう。なぜ犬や虫ではなくて人間なのでしょう。どうして平安時代でも、江戸時代でもなくて現代に生まれてきたのでしょうか。なぜギリシアでも中国でもなくて日本人なのでしょう。なぜ男性ではなくて女性として生まれてきたのでしょうか。

「私」はいったい何者なのだろうか、そして「何ができるのか。どのような生きていけばいいのか」ということはすべての人が漠然と考えているものです。もちろん簡単に答えがみつかるものではなくて一生かけて探していかなければいけないことですが、学問はその大きなヒントになるはずで

す。

たとえば歴史(日本史・世界史)の教科書には古代からどのような変遷を経て世界は現在の状態になったかが書かれています。人類は戦争などたくさんあやまちをおかしてきましたが、それはなぜ起こってしまったのか、くいとめることはできなかったのか。また後世に残していかなければならないたくさんの業績も残してきました。先人たちがどのようなにして今の世界をつくりあげたのか、それをふまえて今を生きている我々人類は今後どのように生きていけばいいのか、どのような世界をつくっていかなければいけないのかをみんなで考えていかなければいけないのです。

「私」とは何か、ということ。「時間」の面から考えたことが歴史だとすれば、「空間」の面から考えたものが数学や理科です。

数学や理科は人間がつくり出したものではありません。たとえば「三角形の面積 \parallel 底辺 \times 高さ $\div 2$ 」なのは知っているでしょうが、これはだれかがこういう決まりにしましょう、と決めて決めたものではなくて、自然界にもともとあった法則を古代の数学者が研究と失敗をかさねたすえにやつのことで発見したものです。自分たちをとり囲んでいる地球や宇宙はどのように動いているのか、どうして風はふくのか、どうして空は青いのか、といった自然界の法則を数字などを使って人間にも理解できるようにしましたものが数学や理科です。自然という言葉や神様という言葉に置き換えて数学を「神の学問」と呼ぶ人もいます。宇宙や地球がどのように成り立ち、どのように動き、そして「私」はその中でどのように立っているのかを学んでください。

そして国語を勉強することは『私』とは何か」を精神的な面、つまり心の内側から追求することでもあります。日本人として日本語を話して生活するということは日本語のもつ特性や考え方に影響を受けているということです。たとえばもしも池田家の同じ家族のもとに生まれ育ったとしても

日本語を話していなかったら今とは違う人格になっていたことでしょう。国語をしっかりと学び日本の文化を知ってください。英語を学ぶことはそのような側面もあります。外国の言葉や文化を学ぶことにより、逆に日本語や日本の文化の特殊性や素晴らしさがわかることもあります。

もちろん英語は外国人とのコミュニケーションの道具になるという点で重要です。今後いまよりも国際化が進み、日本以外の国で生活をする必要が出てくるかもしれません。世界中で話されている英語や中国語を学ぶことは有効なことです。

Mやそのほかすべての子どもたちはすくなくともひとつ歴史の教科書に出てくるどんな偉人も持っていないものを持っています。

それは「可能性」です。

今十一歳のMには女優になる可能性も、総理大臣になる可能性も、宇宙飛行士や大学教授やオリンピック選手になる可能性を持っています。

もしかしたらそんな大それた夢は自分には無理だと思っはいませんか？ 優れている者とそうでない者、才能のある者とそうでない者、というように人間を二種類にわけて、自分は劣っている方に含まれていると考えてはいませんか？ だとしたらそれは大きな間違いです。いますぐその考えは改めてください。「才能」というものは確かに持っている人と持っていない人がいるのかもしれませんが。しかし努力をしたことのない人間に才能を語る資格はありません。芸術でもスポーツでも囲碁将棋のような勝負事でも、一日十時間の練習を四年間続けたらプロレベルになれるといわれています。あとちょっとというところまで到達できても、そこから実際にプロになって生活できるぐらいのお金をもらえる人は一握りです。しかしこれ以上できないぐらい努力したけれどだめだった、という人だけが才能のうんぬんを語る資格があります。正しい努力をすれば、どんな夢でも限りなく近づくことができるのだ、ということとは忘れないでください。

Mが持っている可能性を大切にしてください。最大限に生かすためには学問をしっかりと身に着けることはとても有効なことです。

最後に人間の目的は幸せになることです。

しかし幸せとはなんでしようか。社会的に成功してお金持ちになることでしょうか。円満な家庭を築くことでしょうか。やりたいことをみつけることでしょうか。

なにが幸せなのかは人によって違います。Mの幸せは自分で見つけなければいけません。

Mが幸せになることを。パパもママも心から願っています。

パパより